

(様式 1)

整理番号	1	—	1	—	2	7	0	※
------	---	---	---	---	---	---	---	---

**平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」
学生支援推進プログラム及び就職支援推進プログラム
【自己点検報告書】**

1. 連絡先等

プログラム区分	学生支援推進プログラム ・ 就職支援推進プログラム	いずれかに「○」を付してください。
大学・短期大学・ 高等専門学校名	エリザベト音楽大学	
所 在 地	〒 730-0016 広島県広島市中区幟町 4-15	
設 置 者 名	学校法人エリザベト音楽大学	
学長等の氏名	川野 祐二	

取組期間	平成 21 年度 ～ 23 年度 (3 年間)									
取組名称 〔 全角 30 字以内 〕	五	線	譜	か	ら	電	子	ポ	ー	ト
	フ	ォ	リ	オ	へ	の	転	換	に	よ
	る	キ	ャ	リ	ア	支	援	教	育	

申請区分	単独	※ 単独・共同 のうちいずれかを記入してください
共同申請の場合の共同先の大学等名		

(取組担当者)

ふ り が な	かわの ゆうじ	所属部署名	学長
担 当 者 氏 名	川野 祐二	及 び 職 名	
電 話 番 号	(勤務先)082-221-0918	(直通番号等)082-221-0918 (内線 200)	
F A X 番 号	082-221-0947		
e-mail アドレス	kawano@eum.ac.jp		

(事務担当者)

ふ り が な	おかの みえ	所属部署名	学事部学生生活
担 当 者 氏 名	岡野 三枝	及 び 職 名	
電 話 番 号	(勤務先)082-221-0918	(直通番号等)082-221-0918 (内線 237)	
F A X 番 号	082-221-0947		
e-mail アドレス	okano@eum.ac.jp		

(様式 2)

平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」 学生支援推進プログラム及び就職支援推進プログラム 【 自己点検報告書 】

2. 自己点検評価の内容

① プログラムの目的及び内容

本取組においては、電子ポートフォリオと連携した学生教育支援システムを構築し、学生は学習、音楽、ボランティアなどの諸活動の記録を記載し、振り返りを行う中で、学習意欲・キャリア意識を育成し、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決能力等を培い、従来の音楽大学にない学生・教職員が一体となった主体的な学びの実践を行うことを目的とする。

② 到達目標

本取組では、音楽活動が学業及び生活の中心に置かれ、就業意識が希薄な音大生に対して、電子ポートフォリオに日常の諸活動(各自が日々練習・習得した楽曲名を含む)の記録と振り返りを行う中で、就業を動機付け、学士力を培う。担当教職員は継続的に学生の指導、励ましを行うことを通じて目標達成の状況を把握し、卒業時に全員の進路を確定することを目標とする。

③ プログラムの実施内容

電子ポートフォリオ及び学生教育支援システムを構築することにより、学生は振り返りを行う中で主体的に学びの意欲を高め、キャリア意識を育成する。担当教職員は学生情報を共有し、学生指導及び保証人との連携に、さらに学生の希望の多い教育職の求人を含む就職情報の電子メール配信にも活用する。また、従来からある講座に加えて、新たな就職支援講座も開設する。

前述の学生支援に関しては、法人理事会及び学長をはじめとする教学部門においても最重要課題となっている。本プログラムに関しては、学生生活センター室長が中心となり、学生生活・就職担当職員が協力して本取組に不可欠なシステムを構築し、初年次教育及び教職課程を担当する教員、学生のクラス担任(教員)とも連携して全学的組織的に実施した。

④ プログラムの成果

1. 当該プログラムの周知方法等

当該プログラム実施により導入された就職支援データベース、電子ポートフォリオシステムの期待される効果を学内にポスター掲示した。学生に対しては、ホームルームで資料を配布して、マニュアルを用いて使用方法を説明した。

教職員に対しては、教授会や各種委員会で周知したほか、教職員研修会において、授業での具体的な活用事例の紹介を行った。特に電子ポートフォリオに関しては、授業での積極的な活用、利用促進を呼びかけ、実施した。

学内で馴染み易いツールになるように、学生、教職員から愛称を募集して、就職支援データベースを含む学生支援システムを「イーチ」、電子ポートフォリオを「マナ坊(まなぼう!)」と名づけた。

学外に対しては、大学広報『エリザベト アイ』、大学案内、ホームページにおいて、選定されたプログラムの詳細についての記事により幅広く周知を行った。

2. 当該プログラムの成果

1年ごとの補助事業実施計画を基に、学生・教員からのアンケート結果を参考にしながら実績と成果を整理し、当初の達成目標に対する到達度を評価した。

補助事業実施計画を大きく(ア)基幹学生教育支援システム(就職支援データベース作成、電子ポートフォリオ導入)(イ)講座、オリエンテーションの開催の2つに分け評価した。システムの構築だけに偏らず、それを十分に活用したうえで、パーソン・ツー・パーソンの学生支援に結びつけられるかが評価のポイントとなった。

(ア)基幹学生教育支援システムの整備について

基幹学生教育支援システムの整備として2つの事業を行った。就職支援データベース作成と電子ポートフォリオ導入である。まず、就職支援データベース作成のために、学生の基本情報、会社及び求人情報を入力した。(この基本情報には、学籍管理、履修状況、成績など学生の日常の学修に関する情報が含まれる。)このシステム構築により学生は学内外のパソコンからアクセスできる環境が整えられ、これまで掲示板のみでの周知だった求人情報を自宅のパソコンからでも閲覧が可能となったことは最大の利点として挙げられる。企業情報、求人情報を業種・職種別に登録することができ、学生の希望する分野へのアプローチが可能になった。また進路決定に繋がる講座の案内に利用できることも大きな効果である。これらのシステム使用方法については、オリエンテーション、ホームルームを適宜利用しながらマニュアルを用いた説明会を開催し、利用率アップを図った。平成23年度の1・2年生は「情報機器演習」が必修となり、授業でもこのシステム及び利用方法について利用方法が指導されているので、徐々に利用率は上昇するものと考えられる。また、卒業してからも使用できるメールアドレスを学生に配布して、随時求人情報が配信できるシステムが整備されつつある。

もうひとつの基幹学生教育支援システムの整備として、電子ポートフォリオを導入した。導入の目的は、学習、音楽、ボランティアなどの諸活動の記録を記載し、振り返りを行う中

で、学習意欲・キャリア意識を育成し、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決能力等を培い、卒業時の進路を確定することであるが、概ね目的に添った利用が始まっている。最終年度の平成 23 年度では、教員の授業活用も増えており、レポートの課題提示や提出、学生一人ひとりが演奏する試験プログラムの提出、授業評価アンケート、教員と受講者の双方コミュニケーションなどの利用が始まっている。学生生活の指導においてもオリエンテーションやオフィスアワーなどのアンケートの実施などの利用が始まったが、今後は、学生個人の利用促進とともに本来の目的である、「貯めて振り返る」のスタイルを確立させたい。そして、教職員間での普及のために、学内の研修会を継続的に行い、学外での事例発表、研修会に参加して、その成果を学内の研修会で情報を共有して普及に役立てたい。平成 24 年度からは、ホームルーム担任との面談の際に必要な面接票を記録し、教職員も情報共有により学生個人の成長を確認できるよう整備する予定である。

システムを構築して間もないために、就職支援に活用する体制がまだ充分でないので、その体制づくりが今後の課題である。

(イ) 講座、オリエンテーションの開催について

講座、オリエンテーションは、次の 4 講座を行った。それぞれの講座についてまとめた。

① 就職講座

② 卒業生が在学生に語る就職活動体験講座

(就職オリエンテーション～卒業生から後輩へのアドバイス～)

③ ヤマハ指導グレード講座

④ 管楽器リペア講座

① 就職講座

音楽大学という専門性の高い大学だが、近年一般就職を希望する学生も増えており、外部講師を招き就職講座を開催した。1 年生から「キャリア教育」を正課として学び、将来の自分の進路選択が主体的に行えるよう、コミュニケーションスキルの修得、時事問題のディスカッションやプレゼンテーションの演習を行っているが、他大学の 3 年生の多くが就職活動を行う今日、本学の学生も社会に出る前に履歴書の書き方や、面接試験、マナー講座など不可欠な知識をつけさせるために、希望学生を対象に講座を開催した。講座内容は、自己分析、エントリーシート・履歴書の書き方、面接試験対策、グループディスカッション対策、身だしなみ、マナーなどで、学生からは好評である。日頃から、ステージ上での演奏を行っており、人前での自己アピールには抵抗がなく、多少自信を持っていた学生も、しっかりとした下準備がなければ面接試験での対応ができないという現実を知り、厳しさを認識した。

② 卒業生が在学生に語る就職活動体験講座

(就職オリエンテーション～卒業生から後輩へのアドバイス)

近年では音楽を専門的に学んだ後、一般就職する学生もあり、後輩にとって、同じキャンパスで学生生活を送ってきた先輩が社会人として活躍している姿は憧れの存在であ

る。特に在学生に年齢が近い先輩による体験談は毎年好評である。この3年間の講師の職種は、音楽関係であると、教育職員(中学校)、音楽教室講師、警察官としての保安職に就きながら音楽隊員として活躍する者、音楽以外では、小売店での販売職、介護施設で音楽の知識を活かしながら介護現場で働く者などである。平成23年度は合同ホームルームを全学生対象のオリエンテーションとして用いた。学生からのアンケート結果から、早めに進路を考える必要があるなど、前向きな意見が見られるなか、多ジャンルの卒業生からの講話を準備したため、オリエンテーション自体が長く、もう少し人数を絞った方が良いとの意見もあった。教職課程履修者のためには複数の学校種の教員からの話を聞く機会をつくるなど、今後工夫が必要である。

③ヤマハ指導グレード講座

音楽教室の講師になるために必須とされる(財)ヤマハ音楽振興会が実施する「ヤマハ音楽能力検定試験」資格取得のために、外部講師を招き講座を開催した。毎回10名程度の参加で人数は少ないものの、実際にキーボードを使用し、課題に取り組む講座のスタイルであることから、講師の目が行き届くぎりぎりの人数での開催であった。講師は検定試験の試験官経験者なので、出題傾向も熟知しており、受講者は熱心に受講していた。受講後、全受講生がグレード試験を受験する意志をもっており、狭き門となっている音楽教室講師への道に進むべく努力している。

④管楽器リペア講座

管楽器専攻の学生あるいは教職を目指す学生のために、外部講師を招き講座を開催した。現在、教職の現場では、吹奏楽の部活動が盛んで即戦力としての指導力を求められるため、仮に吹奏楽の経験がなくてもコンクール出場に向けて指導しなくてはならない状況は避けられず、少しでも管楽器に慣れておくことは必要である。講座は、まず初めに初心者でもわかりやすい音響学、次に楽器構造の講義があり、その後実際に楽器を分解し、調整方法を学ぶものだった。講師は、長年プロフェッショナル・アマチュアを問わず演奏家の楽器を調整・修理してきたベテランの技術者で、学生の質問にも丁寧に対応していた。

平成23年度は、教職を目指す3年生は必修となった。興味をもった学生は次年度も再度受講することもできるため、スキルアップが可能である。

※評価の観点に則した客観的な資料を添付

⑤ 今後の計画

就職支援データベースの活用については、現在のところ基本的な情報の確認(学籍管理、履修状況、成績)が主となっているが、今後は就職支援に充分活用すべきと考える。学生が日常的に求人を確認し、希望する進路を卒業時には決定できるように指導したい。

電子ポートフォリオは、理想的な利用方法が学生生活の記録を貯めることであるので、機器の扱いに習熟させるべく、授業での活用を増やす。学生が便利なツールとして認識すれば、学修以外の記録が増えると推察される。具体的な授業での活用については、現在教職課程科目が多いが、他の科目での積極的な利用を促したい。また、実技科目での活用として、練習中の楽曲の演奏データを貯めることも推奨したい。

教職員用に研修の場を何度か設けたが、アンケートを見ると、まだ操作方法や利用方法について整理しきれていない様子なので、来年度も引き続き研修の場を増やし、本学に合った利用方法を編み出すことが課題である。

⑥ 就職未内定者への支援策

音楽大学では、卒業間際まで専門実技練習のために多くの時間を割くことから、内定のピーク時に内定を得られない学生も多い。また、就職に対しての意欲が高まっていないまま卒業を迎える学生もいる。在学中に各人の希望に添った求人がきた場合には、メールでの周知、また個別に電話連絡をして就職支援を行っている。学生生活委員会、ホームルーム担任で情報を共有するなか、学生の就業意識を高めるための継続的な支援を今後も継続させる。残念ながら就職支援データベース、電子ポートフォリオは在学中のみの利用となることから、卒業後は、卒業生が閲覧できるよう、従来どおりの掲示板での求人情報を案内し、相談にも対応している。そして、本人の要望があれば、卒業後も使用できるメールアドレスにより求人を案内し、一人ひとりを大切にしたい支援を心がけている。

※ 評価の観点に則した客観的な資料は10ページ以内として下さい。

【自己点検報告書】客観的資料

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」

学生支援推進プログラム及び就職支援推進プログラム

エリザベト音楽大学

「五線譜から電子ポートフォリオへの転換によるキャリア教育」

客観的資料として、各事業の学生、教員からのアンケート結果を付ける。

このアンケートの実施は、8ページから12ページの（ア）基幹学生教育システムの整備については、平成24年3月、13ページ以降の（イ）講座、オリエンテーション開催は、各事業の最終日である。

この事業が学生にとってどのように受け止められているのか、学生支援に役立てられているのか、またマネジメントにあたる教員がどのように学生指導に役立てているかを把握できた。

目 次

（ア）基幹学生教育支援システムの整備について・・・・・・・・・・	8
①就職支援データベース作成・・・・・・・・・・	8
②電子ポートフォリオ導入・・・・・・・・・・	9
③就職支援データベース作成、電子ポートフォリオについての意見・・	11
（イ）講座、オリエンテーション開催・・・・・・・・・・	13
①就職講座・・・・・・・・・・	13
②卒業生が在学生に語る就職活動体験講座・・・・・・・・・・	13
③ヤマハ指導グレード講座・・・・・・・・・・	15
④管楽器リペア講座・・・・・・・・・・	15

(ア) 基幹学生教育支援システムの整備について

①就職支援データベース作成

就職支援データベース作成（学生の基本情報：学籍管理、成績等、会社及び求人情報）について、学生、教員にアンケートをとった。

〈学生アンケート結果〉

質問	回答
1週間のログイン回数	1回：80% 3回：20%
利用方法（複数回答可）	掲示板：40% 履修登録：80% 授業評価アンケート：100% 求人企業の閲覧：20% リマインダ機能により携帯電話等で知りアクセスした：10%
便利だと思いますか。	便利だと思う：100% 便利だと思わない：0%

〈教員アンケート結果〉

質問	回答
長所、短所	長所、短所 ・ 求人情報が自宅でも見ることができるのは便利である。 ・ 授業アンケートなどを複数の先生と共有できること。 ・ 自宅からもアクセスできるため、利便性が高まった。成績入力が手書きのものに比べ、作業量が減少し、負担度も減少した。授業の成績管理も履修者名簿が取り出せて便利だった。 ・ 全てがスピーディになった。採点の記入も現在はラジオボタンで簡単である。 ・ 入力が容易で、確認、修正が簡便である。 ・ 履修者の確認ができること、シラバスの上書きができること、採点の登録などがどこでもできることが便利だった。 ・ 「PCの前に座って」ということに縛られ、また紙媒体のように、途中（他の用件がはいつて）中断したあと、またPCにとりかかるのが煩わしい。 ・ 実技カテゴリーの採点がカテゴリー別に学生の名前が分類されていなかったため面倒だった。
学生の指導での利用方法	・ 学生の指導についてはまだ活用できていないので、これから活用方法を考えていきたい。 ・ 履修科目を迷う学生に対してシラバスのキーワード検索を利用して助言した。
今後の利用方法	・ 担任として、また学生相談を通じて関わる学生に対し、そ

	の学生の履修状況や成績を参照し、面談の資料にできればと思う。 ・ 本人の希望進路に応じたアドバイス ・ 学生の過去の GPA 値の推移などを確認することができるのであれば面談時などに便利だと思う。 ・ ゆくゆくは学生カルテ、ないし学生ファイルとして生活指導や学習指導に役立てることができれば良い。 ・ 常に学生と実際に接していきたいので、特に考えていない。
--	--

②電子ポートフォリオ導入

電子ポートフォリオ導入について、学生、教員にアンケートをとった。

〈学生アンケート結果〉

質問	回答
1 週間のログイン回数	1 回：80% 3 回：20%
ポートフォリオに貯めているもの	・ 授業でのレポート課題や作品 ・ 大学祭実行委員で作ったファイル ・ 本番での写真、中高へのレッスンやボランティアの記録 ・ 試験曲 ・ 特に何も貯めていない。
長所、短所	長所、短所 ・ 家でも夜遅くでもプログラム提出や課題提出ができる場所。 ・ レポートを自分で整理する必要がない。 ・ レポートを書くとき、USB を持ってなくても、途中で保存しておけば続きが書ける。 ・ 容量を気にせずいくらでもデータを UP できること。 ・ レポートがデータで提出できるので印刷、製本の手間が省ける。 ・ 提出したレポートがデータとして手元に残ることが嬉しい。 ・ パソコンに不慣れな人は少しかわいそうに感じる。
今後の利用法	・ 大学祭関係のアンケート ・ 自分の演奏をデータとして残したい。 ・ アンサンブルの演奏者の募集で、コミュニティ機能を使いたい。 ・ オーケストラのコミュニティを作ってインスペクターの負担を軽減したい。(現在は携帯に送っている。)

〈教員アンケート結果〉

質問	回答
電子ポートフォリオ 利用方法	授業での活用（レポート課題提示、確認、採点、休講・補講連絡） ・ キャリア教育 ・ 情報機器演習 ・ 人間学 ・ 教職履修カルテ ・ 教師論 ・ 教育史 ・ 教育相談 ・ 教育心理学 ・ 教育実習事前事後指導 ・ 発達心理学 ・ 音楽文化研究演習 ・ 音楽文化卒業演習 実技科目の試験曲プログラム提出 ・ デジタル鍵盤楽器奏法研究 ・ 作曲研究 ・ 声楽研究 ・ 鍵盤楽器奏法研究 ・ 管弦打楽器奏法研究
長所、短所	長所、短所 ・ 時間、場所を問わずいつでも保存したファイルを開くことが出来て便利。 ・ カテゴリー運用のうえでとても役立った。特にプログラム入力を学生本人がしてくれるので、試験時の書類作成がとても楽になって助かっている。 ・ 簡単に即座に情報を発信でき、利用方法が簡単だったことに感心した。 ・ 一度にたくさん利用しすぎて、マネジメントが大変だった。いつでも見られるのは利点のようであるが、学生がすぐに返信をもらえらると思ってしまい、こちらがすぐに対応できないケースも生じ、困ったこともあった。 ・ ファイルの共有により、授業に関わっている複数の教員がレポートを読むことができ、学生理解を共有することができた。
今後の利用方法	・ クラス授業なら、課題の提示、レポートの回収、授業

	アンケートで利用することができると思う。 ・ 今年度同様の利用方法での情報機器演習 ・ 〈音楽家の耳トレーニング〉のアンケート ・ 音楽執筆法研究でのレポート提出 ・ 音楽文化卒業演習（幼児音楽教育専修）Ⅰ・Ⅱ 授業時間を多く使って研究のすすめかたを講義することもできないので、授業での簡単な説明を補う意味で「研究題目の決め方」「レポートの書き方の基礎」「研究における倫理規程」などのコラムをストックしていければと考えている。 ・ 音楽理論、ソルフェージュ ・ 人間学での配布資料 ・ 音楽文化概論Ⅱで創作作品のデータ（録音した音源） ・ 外国語研究（日本語） ・ 実技レッスンの内容や感想
--	--

③就職支援データベース作成、電子ポートフォリオについての意見

（学生からの意見）

- ・ 就職のお知らせをもっと積極的に欲しい。
- ・ 有効に利用している人もいるけれど、パソコンが苦手な人やパソコンが家になく人など、有効活用できていない人もたくさんいると思う。またパソコン上だけで何か連絡などが掲示された場合、皆に伝わっていなかったりすることもあるから、掲示板にも掲示するなど、パソコンと掲示板をどのように使っていくか、もっと考えていったら良いと思う。
- ・ ポートフォリオの方はレポート提出とプログラム提出の目的以外で利用している学生は少ないと思う。実際私のように自分の演奏をデータに残したいと思っていてもその方法がよく分からず使いこなせていないという学生は多いのではないだろうか。学生全員がフル活用できるようにもっと分かり易いものにして頂けるとありがたい。
- ・ コミュニティを利用したいが、もっと皆の利用が増えないと難しいと思った。もっと皆の利用が増えるように知らせていけば良いのではないかと思った。

（教員からの意見）

- ・ これらシステムを使い、双方向での情報のやり取りをスピーディに行うことが可能になった。しかしながら、日常的に使っていないと使用法を忘れてしまい、使うのが面倒に感じてしまうので、色々な使い方を頭に入れて授業運営にあたりたいと思う。
- ・ 講習会がもう少しあると良い。
- ・ 電子媒体化は社会的な流れなので、慣れるしかないので、当面の間なるべく大きな取り扱いの変更がないようにお願いしたい。
- ・ 学生の方が IT 世代として活用慣れているところが見られ、アンケート集計など

を見ると、手書きアンケートの集計よりもよく書けているので、よりよい活用方法の工夫や実際の活用を教員側がもっと意識してゆく必要があると思う。

- 学生への伝達方法をマニュアルの形で教えていただきたい。合わせてこれらのシステムを使って出来ること、出来ないことのリストもあると利用の幅が広がると思う。
- 留学生も活用できるように指導したいと思うが、漢字圏以外の出身国の学生にはかなり困難と思われる。

(イ) 講座、オリエンテーション開催

①就職講座

毎年 7 月実施。原則 3 年生を対象に行った。

〈参加人数〉

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
参加人数	67	38	42

受講生からの感想

- ・面接の練習で、面接官が友人だということにとっても緊張したので、本番ではどうなることかと思いました。練習がたくさん必要だということ、準備が必要だということに改めて感じることができました。
- ・とてもわかりやすく、身につけやすい講座だったと思います。受けて良かったです。
- ・自分を PR するということが難しく、緊張もあってこれが本番だったら恐ろしい出来だったと思います。やはり前準備はしっかりしておかなければならないのだと思いました。その他マナーなど知らないことが分かるようになったのは大きな進歩だと思います。
- ・挨拶やマナー、電話での対応や敬語の使い方など、大変色々と勉強になりました、その中でも、一番身をもって体験した面接の練習はとても印象に残りました。具体的なエピソードなど、あらかじめ考えておかないと、その場だけでは何もでてこないのだと改めて感じました、もっと普段からしっかりと考えておこうと思います。
- ・挨拶、おじぎ、電話でのマナーなど普段意識していなかった分野を勉強することができ、学ばなければならないこと、準備しておいた方がいいことなど、知ることができました。
- ・難しいな、と感じたことのほうが圧倒的に多く（特に面接など）、学ぶところも多くあり、充実した時間を過ごせました。本日はありがとうございました。
- ・例えば、かばんを空いているイスに置かない、というような普段何となく行っていることがマナー違反だということをもっと学びたいと思った。
- ・実際に演習することによって、簡単にみえるものがすごく難しくて、やろうと思ったことができなかった。特に、面接の練習は普段の日常生活には存在しないものばかりで、「難しい」というよりできなかった。
- ・流れがスムーズで少人数でも取り組みやすい。
- ・履歴書の書き方やマナーなど知らないことが多かったので、学ぶことができました。敬語などもわかっているようでも、電話や面接などトっさの対応に慣れていないことがわかったので、今回学んで意識していこうと思いました。
- ・今の自分には就活をするにはあまりにも準備不足だと実感しました。自分の自信のなさが面接や行動にあらわれているので自習していこうと思いました。

②卒業生が在学生に語る就職活動体験講座

(就職オリエンテーション～卒業生から後輩へのアドバイス～)

毎年 10 月実施。平成 23 年度は合同ホームルームとして行い全学生を対象とした。

〈実施内容〉

	講師の職種
平成 21 年度	教職（中学校）、一般就職、留学
平成 22 年度	教職（中学校）、音楽教室講師、音楽療法（介護老人保健施設）、留学
平成 23 年度	教職（中学校）、一般就職、公務員（広島県警勤務）、留学

アンケート結果（平成 23 年度）

アンケート回収率 53.1%

Q1. この就職オリエンテーションは役に立ちましたか。

役立った・・・・・・・・・・83.7%

あまり役立たなかった・・・・・・・・15.1%

役立たなかった・・・・・・・・1.2%

Q2. 今後の就職・進路のオリエンテーションについての要望や、今回のオリエンテーションの感想など、自由に記入してください。

- ・ 自分は教職に興味があったので、学校現場で働く身近な先輩の話はとても参考になりました。ベテランの先生の話だと勉強にはなりますが、経験や知識の面などで、勉強中の自分とは大きな差があり、どこか他人事のように思ってしまうがちです。しかし年齢の近い先輩の話は自分のことのように考えながら聞くことができ、また非常に興味をもつことができます。その他の職種に就かれている先輩方の話も、とても興味深いものでした。働き口がなかなか見つからない近年では、仕事は確かに多少は自分で選ぶものですが、様々な職場から自分を選んでもらうという印象の方が強いです。自分の好みでこだわっていてばかりでは難しいと感じることが多いです。普段は無縁に思う様々な職種について、先輩方の話を聞けることは貴重なことだし、関心を持つきっかけとなって良かったです。自分の進路はまだこれから考えていくところですが、今回の先輩方の話を参考にしたいです。このような話が聞ける機会がもう少し増えると良いな、と思います。
- ・ 様々な分野に進まれた先輩方のお話を聞けてとても勉強になった。自分も卒業後に向けて精進していきたい。
- ・ どの先輩の話も経験談など含まれていて、なるほどと思いました。私が今一番興味を持っていることが教職なので、採用試験のことについて話してくださったのが、どんな感じか、どんなことをするのかなど分かりやすく説明してくださり、私にとっては一番良かったです。
- ・ 次回は、できれば小学校の先生に話を伺ってみたいです。
- ・ 先輩方の体験談を聞くこのような機会はとても貴重だと思います。私にとっても役に立つお話だったので、このアドバイスや体験談は忘れずにいたいです。特に留学の話は興味深かったです。何も準備なく行っただと言われていて、少し面白おかしく話しておられましたが、私は見えないところで努力されてる方なのだろうと思いました。また、人柄の良さを一番感じ、聞き入ってしまいました。今の私では絶対に無理でしょうが、留学も視野にいれていこうと思いました。そのためにはどの先輩

方も共通して言われていた”事前の準備をしっかりとすること”を中心に、苦しい事から逃げずに努力を怠ることなく、より上を目指して貪欲にやっていきたいと思えます。

- ・実際に教員として働いている先輩の話を聞いて、勉強になりました。自分が教師としてやっていく自信を持っていないと、頑張れないと思いました。わたしは、教師がどんな仕事をするのか細かく分かっていなかったの、たくさんのことを知りました。子どもに教えるために、授業を考えることに時間を使うということを聞いて、やはり、授業の流れがきちんと頭に入っていないといけないんだと改めて感じました。

③ヤマハ指導グレード講座

〈参加人数〉

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
参加人数	7	10	4

受講生からの感想

- ・思っていた以上に難しくて不安な気持ちでいっぱいのは 3 日間でしたが、自分の苦手なことがわかってどう勉強していけばよいか分かったのが充実した 3 日間になりました。
- ・すごく自分のためになりました。この講座のおかげでコードネームについて自分でもう 1 度取り組もうと思う、いいきっかけになりました。
- ・将来、講師を目指しているの、今回の講座はとても役に立ちました。指導グレード、演奏グレード共に取得できるよう頑張りたいと思います。
- ・今まで母にとっておいた方がいいと言われていたのですが、問題集を見たりしてもよく分からなかったの、今回の講習でどのようなグレード試験勉強をすればいいのか分かってきたので参加して良かったと思いました。
- ・少人数だったのでしっかり勉強できた。

④管楽器リペア講座

〈参加人数〉

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
参加人数	19	15	37

受講生からの感想

- ・とても面白かったです。もっと楽器を大切にしようと思いました。
- ・木管の分解を楽しめました。来年また機会があれば参加したいです。
- ・自分の楽器以外の仕組みや注意点などが分かって楽しかったです。
- ・スライドの掃除をしたからとても滑りやすくなりました。週 1 のペースで掃除をし

ていこうと思いました。また講座があるときは来たいです。

- ・ とてもためになる話が多く、自分の楽器以外のことも知れて良かったと思った。またこのような機会があったら参加したいです。
- ・ 声楽が専門なので、フルートやクラリネットに触る機会がなかなかありませんでした。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 微妙な調節具合によって音色や吹きやすさも変わることを実感しました。
- ・ 楽器を分解するのは初めてだったので、すごく貴重な体験になりました。ありがとうございました。